

平成27年 新春

# 唱歌・童謡コンサート

～伝えよう 誇り高き日本の文化～

2015年 1月17日(土) PM 2:00 開演

泉の森ホール 小ホール

主催

安松幼稚園

後援

泉佐野市／泉佐野市教育委員会

# 第 1 部

## ～オープニング～

一 月 一 日  
千 家 尊 福：作 詞  
上 貞 行：作 曲

富 士 山  
文 部 省 唱 歌

出 演 者 全 員

こ れ が 音 楽  
永 六 輔：作 詞  
中 村 八 大：作 曲

未 来 へ  
玉 城 千 春：作 詞・作 曲  
五十嵐陽子：編 曲

安松幼稚園  
お母さんコーラス  
指揮 花 篤 孝 子  
伴奏 西 浦 明 子

こ の 街 で  
新 井 満：作 詞  
新 井 満、三宮麻由子：作 曲

冬 景 色  
不 詳：作 詞・作 曲  
小六禮次郎：編 曲

HAMORI-BE  
伴奏 古 谷 優 子

メ ド レ ー  
『歌でつなごう日本の一年』  
～さあ、どんな曲がとび出しますやら…  
季節を感じながらお聴きください～

## 伝えよう誇り高き日本の文化

待 ち ぼ う け  
北 原 白 秋：作 詞  
山 田 耕 筈：作 曲

あ わ て 床 屋  
北 原 白 秋：作 詞  
山 田 耕 筈：作 曲

に じ  
新 沢 と し ひ こ：作 詞  
中 川 ひ ろ た か：作 曲

旅 立 ち の 日 に  
小 嶋 登：作 詞  
坂 本 浩 美：作 曲

怪 獣 の バ ラ ード  
岡 田 富 美 子：作 詞  
東 海 林 修：作 曲

花  
御 徒 町 凧：作 詞  
森 山 直 太 朗：作 曲

安松幼稚園 年長児



## 第 2 部



サンタ・ルチア

T.コットラウ：作詞・作曲

こころ

金子みすゞ：作詩  
中田喜直：作曲

ソプラノ 花 篤 孝 子  
伴奏 西 浦 明 子

愛燦燦

小 椋 佳：作詞・作曲

### 園児たちが歌う美しい日本と世界の風景

● スキー

時 雨 音 羽：作 詞  
平 井 康 三 郎：作 曲

雪のふるまを

内 村 直 也：作 詞  
中 田 喜 直：作 曲

● 日本昔ばなし

川 内 康 範：作 詞  
北 原 じ ゅ ん：作 曲

一寸法師

巖 谷 小 波：作 詞  
田 村 虎 造：作 曲

● ゆりかご

平 井 康 三 郎：作 詞・作 曲

ねむの木の子守唄

皇太子妃美智子殿下：作 詞  
山 本 正 美：作 曲

### 安松幼稚園 年長児

### HAMORI-BE

伴奏 古 谷 優 子

おはようをあなたに

小 原 有 貴：作 詞  
中 川 公 志：作 曲

赤い靴

野 口 雨 情：作 詞  
本 居 長 世：作 曲  
中 川 公 志：編 曲

やぎさんゆうびん

ま だ・み ち お：作 詞  
團 伊 玖 磨：作 曲  
中 川 公 志：編 曲

かなりや

西 條 八 十：作 詞  
成 田 為 三：作 曲  
坂 田 晃 一：編 曲

森の水車

清 水 み の る：作 詞  
米 山 正 夫：作 曲  
坂 田 晃 一：編 曲

青い眼の人形

野 口 雨 情：作 詞  
本 居 長 世：作 曲

翼をください

山 上 路 夫：作 詞  
村 井 邦 彦：作 曲  
中 川 公 志：編 曲

りんごのひとりごと

武 内 俊 子：作 詞  
河 村 光 陽：作 曲

赤とんぼ

三 木 露 風：作 詞  
山 田 耕 筈：作 曲  
中 川 公 志：編 曲

You Raise Me Up

B.J.グラハム：作 詞  
R.ロブランド：作 曲

ソプラノ 花 篤 孝 子  
安松幼稚園お母さんコーラス  
伴奏 西 浦 明 子

### ～エンディング～

ふ る さ と

文 部 省 唱 歌

Believe

杉 本 竜 一：作 詞・作 曲

今日の日はさようなら

金 子 詔 一：作 詞・作 曲

出 演 者 全 員

◆ 司 会 田 口 浩 美



## 安松幼稚園

(年長児102名が出演します)

今年で創立 66 年となる安松幼稚園は、「日本の文化を次の世代に伝えていくことが、幼稚園の大きな責務の一つである」と、常々考えています。

音楽の分野については、唱歌・童謡を通じて、時代を超えて残すべき日本の文化を子供たちに伝えたいという想いをもっています。

その趣旨の基、お楽しみ音楽会を毎年 1 学期末に園内で開催して今年で 37 回、泉の森ホールでの新春コンサートは、この 3 年間中断していましたが、今回で 9 回目となります。

選曲の際には、唱歌・童謡に限らず

- 子ども達によい曲（美しい旋律など）に触れさせたいという音楽の観点
- 格調高い綺麗な日本語で書かれた詩に触れさせたいという国語（日本語）の観点
- 唱歌・童謡を通じて、時代を超えて残すべき日本の文化を子供達に伝えたいという社会的な観点

等々、多方面にわたって検討します。

園児たちに詩の意味を説明（お話・写真・実物に触れさせる等々の方法で）しますと、爛々と目を輝かせて興味を持ちます。また園児も保護者も、心から唱歌・童謡を楽しんでいます。

保護者の方からも、「私たち親はあまり唱歌を知らない世代なので、子供とお婆ちゃんお爺ちゃんどて話が弾み、一緒に歌っています。」「子供を間にして、3 世代・4 世代にわたって一緒に歌うことができます。」

「寝たきりで入院中のひいばあちゃんは、ひ孫に昔懐かしい歌を聴かせてもらって涙を流し、生きる力をもらったと大喜びです。」等々の話が、数多くあります。

さてこの 20 年ばかり、唱歌・童謡が日本の社会（とくに小・中学校の音楽の教科書）から姿を消しつつあることを嘆く記事が多く見られるようになりました。産経新聞に掲載された記事をまとめて出版された「教科書から消えた唱歌・童謡」もその一つであり、このコンサートの立ち上げ（第 1 回は平成 16 年 1 月 12 日：安松幼稚園企画：泉佐野市 産経ウエーブ主催）のきっかけとなりました。

歌の指導が、「単なる歌うという技術の伝達」に終わるのではなく、今後とも、日本の文化を伝えていくという原点にも踏み込んでいきたいと考えています。

合唱の練習を通して

- ・みんなで心一つに協力すること（合唱は躰の集大成でもあります）
- ・物事を達成するには、頑張りや努力や一時の苦しみに耐え我慢することが必要なこと
- ・歌い終わった後の充実感や達成感などの喜び等々を、子供達に経験させつつ、卒園までに約 160 曲歌います。

「表情のない音楽は、音楽ではない」との想いの下、ここ数年の歌唱指導において、表情・表現を多く取り入れています。

豊かな表情・表現により、脱力でき、伸びる声・優しい綺麗な声になります。

みんなが同じ表現（動作）をすることにより、声がそろって一つになり響きがよくなります。

本日は、みなさま どうぞお楽しみ下さい。

## 安松幼稚園お母さんコーラス

平成 18 年に発足し、最初は安松幼稚園の先生方の指導で始まったが、平成 21 年より、花篤孝子さんを先生に迎えることとなる。幼稚園に子供を登園させた後、週に 1 回の練習をしている。発表としては、幼稚園における 1 学期末の園内お楽しみ音楽会・2 学期末の生活発表会・3 学期のひな祭り・極楽寺における春のお彼岸コンサートなどに出演している。

全国的に PTA 活動が低迷しているにもかかわらず、現在部員（希望者）が 30 名を超えと盛況を誇っている。今回の出演は、現役の部員 32 名と、OG15 名の計 47 名である。



## 花 篤 孝 子 (ソプラノ)



大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。同専攻科修了。関西二期会オペラスタジオ修了。

学内オペラ「椿姫」「コジ・ファン・トゥッテ」に出演。第 2 回和歌山音楽コンクール大学生の部第 3 位。ミラノの“オペラ集中コース”に参加、ディプロマ取得。その後 2 度イタリアに渡り、M.L. チョーニ女史に師事。2006 年ウィーンにて日本歌曲を歌う。

現在、演奏活動の他、後進や合唱の指導、歌声サロン、保育士への講習にも取り組んでいる。現在、りんくうセントラルスポーツカルチャーセンター講師。女声コーラス“あじさい”、“リトルハート”、安松幼稚園お母さんコーラス、“バーバの歌声サロン”を指導。貝塚市クラシック音楽家協会会員。

## HAMORI-BE (はもりべ)

中川公志と小原有貴の 2 人の歌い手による男声ヴォーカルユニット



中川 公志 京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、  
大阪教育大学大学院教育学研究科音楽教育専攻  
声楽専修修了

小原 有貴 大阪教育大学教養学科芸術専攻音楽コース卒業、  
同大学院教育学研究科音楽教育専攻声楽専修およ  
び研究生修了

日本の唱歌・童謡には、日本人が大切にしてきた季節のうつろい、人と人とのつながり、そして子供の豊かな感性を育もうという先人達の情熱が込められています。その想いを引き継いで、皆様にお届けします。

由紀さおり・安田祥子姉妹に見出され、2011 年からは姉妹の童謡コンサートに全国各地で共演しています。また、独自のコンサート活動も数多く行っています。

美しく柔らかい はもりべ の歌声は、あらゆる世代の人々の心に深い感動を与えています。

産経新聞や安松幼稚園をはじめとした運動の効果も少しはあり、この 4、5 年、唱歌・童謡が、小中学校の音楽の教科書にも、若干復活しつつあります。しかし現場では、その重要性が認識されるところまで至っていないようです。さらなる復活を期待しています。

## 安松幼稚園が考える教育の本道

- 教育とは、子供の周りから困難や障害を取り除くのではなく、それらを乗り越える力をつけることである。
- その為には、個々の子供をきめ細かく観察し、その子供に合った負荷をかけなくてはならない。負荷を乗り越える経験こそ、人としての育ちにつながり、ここを離れての教育はあり得ない。
- 先生の子供への 本気で真剣な関わり そして 先生と子供との心からの触れ合いや信頼関係が、子供の力を引き出すのである。
- ★ 教育の神髄は、「子供に教え込む」のではなく、「子供から引き出す」ことにある。  
Education には、「人が物事を身につけるにいたる過程」の意があり、  
ラテン語 educe は、「隠れた才能・能力などを引き出す」という意である。

- それでは、安松幼稚園がめざす教育と、対極にある子供児童中心主義とを対比してみましょう

### ★安松幼稚園の考える教育の本道

- 型、基本を大切に、時には強制も必要
- 先生、親の凛とした姿勢（ユーモラスな会話やとことん抱きしめ誉めることも含む）
- 困難、障害を乗り越える力をつけたい
- 先生と子供との真剣な関わり
- 我慢し辛抱する経験も大切
- ちょっとした失敗の経験も必要
- 相手のことを思いやる心を育てつつ  
適度な競争や切磋琢磨は必要
- 教育は指導
- 教え込みではなく、子供の発達段階を  
考え、子供との会話や触れ合いを通じ  
子供から引き出すことが大切

### ★子供児童中心主義

- ←→ ● 子供の自由にしたいようにさせる
- ←→ ● いかなる場合も、先生・親と子供は  
友達関係で同じ目線
- ←→ ● 子供がいやがることはさせず、子供の周り  
から困難・障害を取り去る
- ←→ ● はれ物にさわるように、子供の機嫌をとる  
保護主義
- ←→ ● 子供には我慢や辛抱をさせてはいけない
- ←→ ● 失敗すると心に傷がつくのでさせてはならない
- ←→ ● 競争は悪であり、一切させてはならない
- ←→ ● 教育は支援
- ←→ ● 子供から先生にはたらきかけるまで、  
何もせずに待っている

- 今回のコンサートに当たり、上記「安松幼稚園の考える教育の本道」を大切に練習してきました。緊張を乗り越え心一つに力を出し切りを経験することは、物事を成し遂げた後の達成感や大きな喜びにつながります。与えられた負荷を乗り越え、自分が経験することを通してしか得られない自信は、今後の人生において、物事に積極的に挑戦していくという精神や、自己肯定感を育ててくれると確信します。

